

平成27年度学校評価 守口東幼稚園

1. 本園の教育目標	
<p>一本園の教育理念一</p> <p>「鉄は熱いうちに打て」という古いことわざの通り、人生のうち一番大切な幼児教育に力を入れて人間造りに努めます。</p> <p>恵まれた環境の中で子どもたちの健康と体の健康増進を主軸にして、情操豊かな人間形成に最善を尽くします。</p> <p>また幼児の能力開発という面も重視し、基礎的な各技能の習得を図ります。</p>	
1.子どもたちの『あそび』の充実・体験重視のカリキュラム	子どもたちの興味関心の把握、教師の指導力、教材・遊具等の充実に努め、幼稚園の教育活動の大切な要素である『遊び』を充実させた。また、園外保育や農園での収穫を通して、子どもたちの体験を重視し成長を促した。
2.内面的なしつけ教育の充実	『おはようございます』『さようなら』『ありがとうございます』『ごめんなさい』『しつれいします』の言葉や、『人の話を聞く』などのお行儀面を、しつけが外面的にとどまらず、子どもたちの心に届くように心がけた。
3.日本文化の継承	いろはカルタ・ことわざ・俳句の音読・暗唱をすることを通して、日本の文化の良さを伝えた。
4.その他(音楽指導、体育指導、教材農園)	①音楽の講師を外部より招いての音楽指導 ②教材農園での季節の野菜の収穫、園庭での栽培から収穫。虫などの自然観察の体験。 ③体育の講師を外部より招いての体育指導
2. 平成27年度、重点目標・計画	
1.教員の資質向上	①社会に寄与する意識を持つ ②子どもたちや保護者の期待に応える ③自分自身が学んだことを活かし、さらに自分を磨いていく
2.子育て支援	満3歳児、未就園児教室の募集及び宣伝 未就園児保育「花*花クラブ」の実施。 施設や教具、遊具の充実
3.食育の推進	教材農園で、玉ねぎ・ジャガイモ・さつまいも等、季節の野菜の栽培から収穫までを行いました。 そのことにより、土に触れ、虫など自然観察の体験をしました。
4.地域への連携	①守口市との『子育て支援施策に関する事業等の連携』の確認 ②こども園化の研究。
5.園内でのお花・果樹の栽培および教育環境対策	①教育環境面:人員と保育室の配置 ②教育環境面:遊び場の確保と騒音対策 ③教育環境面:遊具と教材の充実 ④保護者への説明
3. 評価項目の達成及び取り組み状況	
1.教員の資質向上	「教員の資質向上」については、「保育の質の向上」に直結するので、教諭は様々な研修に参加、自己研鑽に励んでいる。高い意識を各人が持つように努めた。 また、個々の力が全体としての力になるよう、職員間での共通理解や協力を努めた。
2.子育て支援	預かり保育の充実。長時間保育11時間開園を実施した。 未就園児クラス「花花」のクラス数を増やした 「園庭開放」共に本園の子育て支援として定着している。 保護者や地域の皆さまに広く活用していただいている。 更なる充実を検討している。
3.食育の推進	「食育」については、園内で作った野菜を食したり、お餅つきなどで、お米がお餅に変わっていくことを園児に体感してもらっている。 少しずつ改善を続けているが、自然の恵みに触れることと「食育」とを十分につなげていけるように、より充実した食育環境を作っていきたい。
4.地域との連携	園庭開放を行っている。

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本年度は諸事情の中、新体制を組織し教職員力を合わせ保育の充実に励みました。

また、研修研鑽に努め平常心をもって、すべての行事も保護者の協力を得て滞りなく実施することが出来た。

次年度に向けさらなる保育の充実にむけ前進をしたい。

教員たち自身による「自己点検・自己評価」結果、特に気になった項目は、

- ①保育の計画性として、評価と反省が教育的な観点を踏まえる。他の職員とも話し合う。
- ②子どもへの対応として、言葉にならないサインを受け止めているか、品位ある言葉、正しい日本語の使用。
- ③資質・良識・適正として、より高度な専門知識や技能を身につける。
- ④対応として、簡潔に要領よく話すこと。
- ⑤研修と研究として、自然や社会にも興味を持つ、地域、教材教具、障害のある子どもへの対応研究。

特にこの5項目については、現状の保育内容に活かせるように進めていきたいと考えている。

総合的な観点から見ると、保育の質は教諭の内面性の充実に帰するところが大きく、

その面からの育成をもとに教育内容の充実に果たしていければと考える。

平成29年度 幼稚園型 認定こども園 移行を実施。

5.今後取り組むべき課題

1.教員の資質向上	『保育の質』とは『教員の資質』に帰するものと考えますが、 教諭による『自己評価』を踏まえ、「計画性」、「聞くちから、話すちから」、 「こどもたちとの関わり方」、「自己研鑽」を中心にして、ひとりひとりの専門性を 高めていきたいと考えている。
2.より様々な体験を 子どもたちに	五感を使って感じる楽しめる園環境を作り出すことを、つねに意識している。 幼稚園所有の農園を始めとして、園庭においても、季節の草花を栽培することに より、栽培から収穫、食育までの一環した教育をめざしている。 自然野菜や、昆虫に触れ、生命の尊さや慈しむ心を育てることを目標にしている。
3.地域との連携活動を充実を図 る	幼稚園は預かり保育による長時間開園など充実も求められている中、 本園としては、今まで行ってきた教育内容に合わせ、未就園児など より幅広い年齢層の子どもたちを対象にし、園庭開放を含めた、より地域に根ざした 「子育て支援」を提供できる幼稚園にと内容を充実拡大させていきたい。 守口市や教育委員会、医療福祉関係などとの連携関係をさらに深めていきたい。

6.学校関係者の評価

<評価委員> 学識経験者、評議員、在園児保護者、元職員、町会長 12名

委員からは、新体制の中 「概ね良好な運営がされ、また、学校評価にも積極的に取り組まれている」という意見を頂いた。

さらなる課題として今後取り組んでいきたいのは、幼稚園型認定こども園 実施に向けての準備、

情報公開、預かり保育、子育て支援の強化、

学校評価を園運営により反映していくことなどである。

7.財務状況

公認会計士監査により、計算書類は、学校法人会計基準(昭和46年文部省令第18号)に準じて、

平成27年度会計年度の経営状況及び財務状況のすべての重要な点において

適正に表示していると認められている。